

白き道

今・白き 今この道を 歩いてる
心も 軽やかに

かつて一人 虚ろの中で
光求めて 駆け出した

けれど もう 私は聞いている
本当の事 知っている

そう 私の居場所 帰る里

今・白き 今この道を 歩いてる
かぎらない ままに

あの日慄き 身構えた

水火逆巻く 胸の内

けれど もう 私は聞いている
本当の人 知っている

そう 護ってくれる やさしい光

今・白き 今この道を 歩いてる
喚び声の 中を

永く拒んで 聞こえなかった
自分の無力と 悩んだ人を

けれど もう 私は聞いている
本当の自分 知っている

そう 慈しみの中 生きる者
この白き道 帰る者

白き道

註

今白き 今この道を歩いてる
心も 軽やかに

白道を歩く 今ここに弘願の法を聞いて生きている
安堵心

かつて一人 虚ろの中で

かつて 空曠の迥かなる処 はてない生死の苦海

光求めて 駆け出した

悪獸（煩惱）に襲われ、浄土の救いを求めた

けれどもう 私は聞いている
本当の事 知っている

でも今はもう既に弘願の法を聞かせていただき
真実のご法義を知ってる

そう 私の居場所
帰る里

私の本当の居場所は、阿弥陀様のお慈悲の中
私の本当の故郷はお浄土

今白き 今この道を歩いてる
かざらない ままに

善もいらぬ、悪をつくろう必要もない

あの日
慄き

信心を頂く前（三定死の位のあの日）
惶怖（不安）

身構えた
水火逆巻く 胸の内

貪瞋煩惱盛んな自己を省みて強決するが
どうしても安心はできなかった

けれどもう 私は聞いている
本当の人 知っている

でも今はもう既に発遣・招喚の声を聞き
阿弥陀様に遇えました

そう 護ってくれる
やさしい光

我能く汝を護らん 水火の難に墮すことを畏れざれ
（貪瞋煩惱を恐れる必要はない）
摂取の光明

今白き 今この道を歩いてる
喚び声の中を

弥陀の招喚（そのまま来いよのお喚び声）

永く拒んで 聞こえなかった
自分の無力と
悩んだ人を

永らく自力心で、はねつけ聞損して来た
自力無功の機実を
それ故に五劫思惟された阿弥陀様（法実）を

けれどもう 私は聞いている
本当の自分知っている

でも今はもう既に弘願の法を聞かせていただき
私が何者か分かりました

そう 慈しみの中生きる者
この白き道帰る者

私は阿弥陀様のお慈悲の中を生きる者です
そしていづれお浄土に帰らせて頂く者です

白き道

♩ = 125 C Em Dm C F C F G C

いま しろき いまこのみちを あるいてる こころもかるやかに
かざらないままに
よびごえのなかを

8 Fm Cm Fm Gm7 Fm Cm

かつて ひ とり うつろのなかで ひかり も とめて か
あのひ お ののき み がまえた すいが さ かまくむ
ながく こ ばんで きこえなかつた じぶんの む りよくとなや

16 Fm Gm Fm Gsus4 C Em F C

けだした けれど もう わたしはきいている ほんとのこと
ねのうち ほんとのひと
んだひとを ほんとのじぶん

23 FM7G C C C Dm Em F Gsus G7C To Coda

しっ ている そう わたしの いばしょかえ る さと
ま もって くれる やさしい ひ かり
い つくしみ の なか い き る も の

30 Db Ebm Fm Gb Absus Ab7 Db Fine

こ の し ろ き み ち か え る も の

今・白き 今この道を 歩いてる
心も 軽やかに

かつて一人 虚ろの中で

光求めて 駆け出した

けれど もう 私は聞いている

本当の事 知っている

そう 私の居場所 帰る里

今・白き 今この道を 歩いてる

かざらない ままに

あの日慄き 身構えた

水火逆巻く 胸の内

けれど もう 私は聞いている

本当の人 知っている

そう 護ってくれる やさしい光

今・白き 今この道を 歩いてる

喚び声の 中を

永く拒んで 聞こえなかった

自分の無力と 悩んだ人を

けれど もう 私は聞いている

本当の自分 知っている

そう 慈しみの中 生きる者

この白き道 帰る者